

KENGURO

季刊報

vol.23

INDEX

Focus on!!

約3年ぶりに韓国・
ハンバット大学校と
学生間交流を実施!



理工学部のジュウガツザクラ
例年より早く開花しました

約3年ぶりに韓国・ハンバット大学校と学生間交流を実施!!

Focus on!!

新型コロナウイルス感染症に関する水際対策が大幅に緩和されつつある中、ハンバット大学校との双方向による学生間交流が約3年ぶりに遂に再開しました。2023年1月4日から1月8日の日程で、ハンバット大学校から10名の学部・大学院生および7名の教職員が来学し交流を行ったとともに、1月29日から2月5日の日程で、今度は本学学部生・大学院生8名と4名の教員がハンバット大学校を訪問し交流を深めました。日韓混成チームによる共同PBL（問題解決型学習）、研究室見学、文化施設見学・文化体験などの様々なイベントを通して、両大学学生が密に国際交流を行いましたのでご紹介します。

2 019年9月以来の交流再開

ハンバット学生と本学学生が日韓混成チームを組んで取り組む共同PBLは本交流事業のメインイベントです。今回はハンバット学生が提案した、① How to overcome the problems of self-driving cars? (自動運転車の諸問題をいかに克服するか?)、② What will be next after smartphone? (スマートフォンの次は何?) ③ Safe Smart City with Information & Communication Technology (情報通信技術を活用した安全なスマートシティ)、④ Space garbage collection technology in the manner of eco-friendly approaches (エコフレンドリーな方法による宇宙ゴミ収集技術)、の4つがPBLのテーマです。

岩手大学での研修では、まず両大学教員によるミニ講義、ハンバット学生によるPBLテーマ紹介が行われた後、テーマごとに4チームに分かれPBLを実施しました。タイトな来訪スケジュールの中、PBLの時間は実質1日弱でしたが、議論を重ね、中間発表を行うまで纏め上げることができました。質疑応答の際は、両大学の教員から厳しい指摘もありましたが、ハンバット大学校でのPBL最終発表会に向けて、各チーム内で継続的に議論を続けることになりました。PBL後は、本学研修の修了式、研究室見学を行いました。研修最終日は、文化体験として、平泉・中尊寺、一関・世嬉の一酒造を訪問しました。その後、ハンバット学生と教職員は繋温泉で露天風呂を満喫し帰路につきました。

本学での研修が終了してちょうど3週間後、今度は本学学生が大田広域市のハンバット大学校を訪問しました。2日間みっちりPBLを行った後、最終発表を行いました。発表会では教員による審査が行われ、優勝チームには賞状と賞品が贈呈されました。

岩手大学での共同PBLの様子(写真右)。初日から両大学学生は打ち解け合っているようでした。



共同PBLの中間発表の様子(写真左)。両大学の学生・教職員の前でPBLの成果を英語で発表しました。

社会環境分野の研究室見学の様子(写真右)。ハンバット学生は4つのグループに分かれて、それぞれ化学、材料、電気電子、社会環境関連の研究室を訪問しました。



平泉・中尊寺金色堂の前にて(写真上)。当日は雪はほとんどなく、天候にも恵まれました。



一関・世嬉の一酒造の石蔵の前にて(写真左)。ハンバット学生は、いわて蔵ビールの工場見学や日本酒テイスティングを通して、岩手の酒造りの一端を感じ取ることができたようです。

ハンバット大学校の最先端研究に触れるのも本研修の大きなイベントの一つです。研修後半の2日間は、専門分野が近い研究室に滞在し、研究インターンシップを行いました。研究内容の相互紹介と議論、実験を通して、韓国での研究に対する姿勢・考え方を感じることができたようです。研修終了後は帰国に備えソウルに移動しました。国立中央博物館の見学、サブカルチャー発信地である弘大でのショッピングなど、皆さんソウルを満喫し、帰国の途につきました。



ハンバット大学校での共同PBL成果発表会終了後、皆さんで記念撮影（写真上）



ハンバット大学校から南西約70kmにある舒川（ソチョン）の長項スカイウォーク近くの砂浜にて（写真左）。文化体験のため、研修中日に訪問しました。当日は近くの国立生態園も見学しました。

ソウルの国立中央博物館にて（写真右）。日本語ガイドの方が1時間かけて丁寧に館内を案内して下さいました。皆さん真剣に聞き入ってますね。



参加学生の声

松尾咲琴さん、理工学専攻 材料科学コース M2:



今回の交流を通し、積極性や主体性、英語力など、沢山のことを刺激され、多くを学ぶことができた。私は英語力に自信がなく、参加前は不安に思っていたが、ハンバットの学生がとても温かく迎えてくれたため、臆することなく皆の輪の中に入ることができた。英語に自信がないとしても皆の使っている英単語や話し方から、どう言えば伝わるのかを考え、意思疎通を図ろうという思いが、語学力の向上に必要なのだと感じた。これは、直接体験しないとわからないことであり、大変貴重な体験となった。また、PBLでのハンバットの学生たちの積極的な姿勢やLab Activityで実験を体験させて頂いた経験から、研究に対してその姿勢や内容を活かしたいと感じた。今回できた繋がりを大切に、次会うときはもっと沢山のことを話せるよう英語の勉強を継続していきたい。

Lee SeoJinさん、Materials Science and Engineering B4:



I had the great opportunity to participate in a collaborative capstone program with Iwate Univ. I was able to learn a lot from everyone and had a great experience reflecting on my life's direction. As well as capstone activities, we could tour laboratories. Japanese students introduced their research in English, and we were able to see fascinating research being conducted there. Also, in Japan, we had the opportunity to visit unique local tourist destinations, such as a sake and beer brewery and a temple. We were able to taste various kinds of beer and sake and observe the process of making them at there. Iwate prefecture had great air and water quality. I was particularly impressed and moved when I visited the open-air hot springs, and the food was also delicious. I think, it was definitely great experience to interact between Japanese student and Korean students. I'm glad to be friends with everyone.

西澤好汰さん、理工学専攻 物質化学コース M1:



韓国で過ごした8日間は忘れられない思い出になりました。私にとって初めての海外は文化の違いが鮮やかに映り、本の世界に没頭しているかのような感覚で毎日楽しく過ごしました。英語を用いてのコミュニケーションは能力的な面で不安がありましたが、いざ会話をしてみると語順や文法などはさほど重要ではなく、「伝えたい」という気持ちとそのための工夫が最も重要だと感じました。会話に慣れてくると、複雑な内容や表現ににくい心象を自分の言葉で伝えることができるようになり、中学から本格的に行ってきた英語学習の結実を実感しました。今回私は積極的なコミュニケーションを意識して生活することで韓国の文化に没入することができ、渡航以前よりも韓国を好きになりました。この軽くなった足取りでこれからも様々な国の文化を体験していきたいです。

Lee JeeSooさん、Information & Communication Engineering B4:



Before the program started, I thought a lot about whether to participate or not. There were also useless concerns, such as, "Wouldn't it be better for students who can participate in this program more faithfully?" rather than being active? However, I decided to participate in the program because I thought it would be a valuable experience for me to experience other cultures before entering graduate school. During the Iwate-Capston design program, students from both countries learned about each other's culture and backgrounds and worked together to solve problems. As a result, even though we were given a short time, we successfully carried out the task. The ability to see the world from a wide perspective has been developed by experiencing Japanese culture, people, and food. It was a good time to build various experiences and friendships. You probably won't forget this moment. I am willing to recommend this program to other students.

編集後記

陽気な日が続く中、石割桜の菰もはずれ、満開に咲き誇るのももうすぐな時期となりました。今回は1月と2月に行われた、ハンバット大学校との学生間交流をお届けしました。実に3年ぶりの対面での交流となり、学生達の並々ならぬ意気込みも感じられ、また教職員もこのように交流が行える状況にまでこぎ着けたことに感無量です。年度末を迎え、卒業の学生には「幸あれ」とお祈りし、研グロにご協力いただいた皆様には御礼を申し上げます。

編集局：

研究高度化・グローバル化特別対策室

Email: kenguro@iwate-u.ac.jp

TEL: 019-621-6405

http://www.kenguro.iwate-u.ac.jp/



研グロHP